

第7号の刊行に寄せて

昨年の6月、念願の1つでありました^{かなざわじょうあと}金沢城跡の国史跡への指定が実現しました。この実現には、金沢城研究調査室時代から進めてきました金沢城に関する絵図・文献や埋蔵文化財、建造物や石垣などの総合的な調査研究の成果が寄与したものと考えています。

今年度も、着実に調査研究を進めて金沢城の実態の解明に努めています。この成果の一端は、本年1月に行ったシンポジウムや、3月に編集を終えた、『よみがえる金沢城』第2巻に盛り込み、情報発信にも努めています。

本書では、シンポジウム「江戸城と金沢城の御殿」の記録のほかに、客員研究員による研究成果の中間報告として、3編の論文を収載しています。市川浩文氏は、筑前福岡藩黒田家が普請に関わった城郭石垣の技術的変遷を明らかにし、楠寛輝氏は、松山城石垣の特徴と変遷について試案をまとめています。白峰旬氏は、文化期の金沢城二ノ丸御殿の再建工事期間中における労務管理の実態を明らかにし、考察を行っています。

また、武家を中心とした城下町金沢の生活の一端を明らかにした池田仁子氏や所員による論文のほかに、資料紹介も掲載しており、多彩な内容となっています。

最後になりましたが、玉稿をお寄せいただきました市川、楠、白峰、池田の4氏、シンポジウム「江戸城と金沢城の御殿」の収録につきまして御高配いただきました平井聖先生、太田昌子先生、伊東龍一先生に感謝を申し上げますとともに、本書が県民の皆様の高い関心に応え、金沢城跡の保存・活用の一助となり、広く近世城郭史研究に資するものとなれば幸いと存じます。

平成21年3月

石川県金沢城調査研究所

所 長 北垣 聡一郎